

## タイトル: ザビエルについて

学籍番号: 2213081

名前: 濱崎遥

### ■概要説明:

私がこのプロジェクト演習で工夫したところは「ザビエルが鹿児島に来るまでの経歴」の部分ではザビエルが鹿児島に来るまでの生い立ちをわかりやすく見やすくするためにプロフィール形式で下矢印でザビエルがやってきたことを書いた。また、「ザビエルが鹿児島に来た理由」の部分ではキリスト教会に学外研修で行った際にキリスト教会にあった本の中にザビエルが日本で訪れた地が図に表されていたが、著作権で本の図をそのまま使えないため自分で絵を書きザビエルが日本で訪れた地の順番をわかりやすく伝えるために赤字で矢印と番号を書いた。そして、文章は長々と書くのが難しく感じザビエルについて伝わりにくいと感じたため文章を簡潔にまとめ呼んでいる側に伝わりやすい文章構成にした。また、文章だらけだと堅苦しいイメージになるためイラストや写真を使用したり、プロフィール形式にしたりなどの工夫をした。逆にもう少し工夫すればよかったところは「ザビエルが鹿児島に来るまでの経歴」の部分でザビエルが大人になってからしか書いていないため、ザビエルが生まれたところから書けばよかったと思う。

### ザビエルが鹿児島に来るまでの経歴

紙園之洲公園「ザビエル上陸記念碑」(レイ・フランセン)



撮影者: 濱崎遥

- 1537(天文6)年6月24日(31歳)  
ベネチアで司祭叙階をした。
- ↓
- 1541(天文10)年4月7日(35歳)  
インドへ向かった。
- ↓
- 1542(天文11)年5月6日(36歳)  
ポルトガル王ジョアン3世の依頼でインドのゴアに派遣された。
- ↓
- 1548(天文17)年9月20日(42歳)  
ゴアの聖パウロ学院でヤジロウのほか2名の日本人が洗礼した。
- ↓
- 1549(天文18)年4月14日(43歳)  
日本に向け、ゴアを出発した。
- ↓
- 1549(天文18)年8月15日  
鹿児島に上陸した。

### ザビエルが鹿児島に来た理由

フランシスコ・ザビエルの日本渡航図



イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエル、1549(天文18)年8月15日マラッカで出会った鹿児島人ヤジロウをともなって鹿児島に上陸し、日本における布教の第一歩を印した。このように、鉄砲とキリスト教に代表されるヨーロッパ文化はいずれも鹿児島島の地を窓口として伝来したのである。また、ザビエルは一宇治城に島津貴久を訪ね布教の許可を得たが、仏教勢力の抵抗や、貴久が布教に熱意を示さなかったこともあって1年余りで鹿児島を去った。南蛮貿易を望む貴久はザビエルの来鹿を求めたが、彼は再び鹿児島島の地を踏みこたはなかった。

濱崎遥

## タイトル：ザビエル教会について

学籍番号：2213077

名前：永野愛佳

### ■概要説明：

私は、全国にあるザビエル聖堂を調べ、実際に見学をした鹿児島カテドラル・ザビエル教会をメインに、得られた情報をまとめた。鹿児島カテドラル・ザビエル教会の見学をして、ステンドグラスの色の違いやザビエルの遺骨を安置していること、聖堂を残し続けようとしてきた歴史などを知り、そこから分かるザビエル聖堂に込められた思いを考えた。工夫したところは、文章だけではなく写真を使い、空間を活かした配置をしたところである。見やすく分かりやすい、誰もが理解できるようなものになるよう心がけた。苦戦ところは2つある。1つ目は、調べて得られた情報が多く、全てを伝えようとすると1枚の紙に収まらなかったため、自分が本当に伝えたい情報をまとめ、文章をなるべく簡潔にしたところだ。2つ目は、写真の使用許可と、正式名称の確認だ。作成したものは残るものであるため、インターネットの情報だけでは、本当に正しい情報が分からない部分もあった。そのため、色々な教会に直接電話をかけて確認をした。今回のゼミを通して、ザビエル聖堂はザビエルの果敢な人生や偉業を記念する他、意志を受け継いでいきたいという、建築に関わる全ての人々の強い思いが込められていることが分かった。

・カトリック河原町教会（京都府）

・聖ザビエル天主堂（愛知県）

・フランシスコ・ザビエル記念聖堂（長崎県）

・山口ザビエル記念聖堂（山口県）★ザビエルの遺骨が安置されている。

・カトリック神田教会（東京都）★ザビエルの遺骨が安置されている。

・鹿児島カテドラル・ザビエル教会（鹿児島県）★ザビエルの遺骨が安置されている。



左から、1番目の聖堂は石造り聖堂。2番目の聖堂は木造聖堂。現在の聖堂は3番目であり、コンクリート聖堂になっている。現在の聖堂の主聖堂（2F）のステンドグラスの色には意味が込められている。赤は「教者の血の色」と「ザビエルの情熱」を表しており、青は「祈り」や「静寂」、「ザビエルが渡ってきた海の色」を表している。

全国のザビエル聖堂と鹿児島カテドラル・ザビエル教会について

鹿児島女子短期大学 教養学科 黒川ゼミ

## ザビエルの行動記録

学籍番号：221015

名前：黒木絵怜奈

■概要説明：私は、ザビエルがなぜ日本にキリスト教を布教しに来たのかについて調べた。その為には、日本史じゃなくて世界史に目を向けないといけなかった為、図書室にあったザビエルの書簡を呼んで、日本に来るまでのザビエルの行動履歴を調べた。作成する際に工夫した点は、まず私たちが調べたい目的は何なのかを明確にし、見やすいようにタイトルの下に色を付けて作成したことである。また、小見出しを太文字にして第三者が分かりやすいように作成したり、文章を作成する際に第三者が理解しやすいような表現に変えたりするところを工夫した。作成時に難しかったと感じたところは、最初 word で作成をしたが、写真や図形が張り付けられなくて時間がかかってしまった事である。PowerPoint に変えてからは、パッと見た時に見やすく、まとまりのある 1 ページになるように文字のフォントの大きさや、字体、太さ、色などが全体で見た時に統一感が出るように何度も修正し直した点である。



鹿児島カテドラルザビエル記念聖堂

## 2023(R5) プロジェクト演習

鹿児島女子短期大学 教養学科 黒川ゼミ

タイトル:ザビエル公園の今について

学籍番号:2213070 名前:K T

### ■概要説明:

私は、プロジェクト演習で「鹿児島と外国のかかわり」をテーマに、フランシスコ・ザビエルという人物に焦点を当て、ザビエルにゆかりのあるザビエル公園の今について調べレポートを作成した。私はザビエル公園の今について調べ、特に記念碑に重点を置いて調べた。何故ザビエル公園の記念碑に「ル」がないのかとても気になり様々な本を読み追求した。記念碑は空襲でか焼け落ちた聖堂の玄関や石壁などを組み合わせて、1949年に建設された。そして、同年にザビエル公園に移築された。ザビエル聖堂の建立に携わったのは、フランスのパリに本部を置く、カトリック男子宣教会のパリ外国宣協会所属フランス語系ベルギー人のラゲ神父であった。フランス語でザビエルはザビエーと発音させる。したがって、ザビエル公園の記念碑に残されている「ザビエ」の表記は建た立に携わったラゲ神父の母国語であるフランス語の名残と考えた。ザビエルの今の様子などを自分の考えや感じたことに基づいて書くことが少し難しかった。誰にでも公園の様子が伝わりやすいように、温かみのある公園に感じてもらえるように考えた。パンフレット自体は開いた時に統一感があり、シンプルに見やすいを目標に海外の雑誌などを参考にし作成した。特に、文字の配置や色味、フォントにもこだわった。プロジェクト演出を通し、鹿児島と外国のかかわりを知り、今後もザビエルが世界と結ぶ繋がりきっかけになってほしいと思う。そして、更に活気ある鹿児島へなってほしいと考える。

タイトル：ザビエル公園の昔について

学籍番号：2213069 名前：S.K

■概要説明：

私は、プロジェクト演習で「鹿児島と外国のかかわり」をテーマに、フランシスコ・ザビエルという人物に焦点を当て、ザビエルに込められた鹿児島の思いや歴史について、リサーチクエスチョンを考え、レポートを作成した。私は、ザビエル公園土地の時代別の歴史や鹿児島とザビエルの関わりについて調べた。その結果、その地には時代ごとの多岐に渡る歴史があることと、鹿児島にとってザビエルは国際化のシンボルであることが分かった。

また、ザビエル公園では幽霊が出るという噂を聞いたことから、先生と協力し、学生に噂を聞いたことがあるかなどの調査を行った。下の表は、調査結果だ。本当に幽霊がいるか確証はないが、多くの歴史を元にこの噂が広がっていったことが考えられる。そして、この結果を、私なりに分析し、推定した結果は下記のとおりである。

- ・ 戦争により昔焼け野原となった場所であった
- ・ 昔整備がされていなくて暗い公園であった
- ・ 実際に見たことがあるという人はほぼいなかった
- ・ 噂を聞いたのは小さな頃であり、年上からの情報であった

これらを総合的に考えると、サビエル公園は、暗くて怖いイメージであり両親などが子供を近寄らせたくない存在であったのではないだろうか。そのため戦争が終わった後、親などがその噂を流した可能性があるのではないかと考えた。具体的な噂もこの考えからすると、納得が行く内容であると考えられた。

【アンケート情報】 ※1 番目の質問以外、質問のみ記載

実施日：2024年1月11日～1月22日 回答者：鹿児島女子短期大学学生 180名

1.ザビエル公園で幽霊を見たり、噂を聞いたりしたことがありますか。		
見たことがある	聞いたことがある	どちらともない
1	21	158

2. 1の質問で「見たことがある」と答え方に質問です。幽霊を見たのはいつですか。
3. 1の質問で「見たことがある」と答え方に質問です。具体的にどのようなものを見ましたか。
4. 1の質問で「聞いたことがある」と答えた方に質問です。どなたから聞きましたか。
5. 1の質問で「聞いたことがある」と答えた方に質問です。いつ聞きましたか。
6. 1の質問で「聞いたことがある」と答えた方に質問です。具体的にどのような噂ですか。
7. 些細なことでも構いませんので、ザビエル公園の幽霊に関する事で何かあれば情報提供をお願いします

# タイトル: ザビエルとはどんな人物だったのか?

学籍番号: 2213075 名前: 堂地梨華

## ■概要説明:

私は、ザビエルがどんな人物であったのかを調べた。

まず、ザビエルの生い立ちについての説明や、鹿児島に来る前はどんな国で布教活動を行っていたのかなどの大まかな流れを示した。また、鹿児島に訪れた際にザビエルが実際に日本に渡航する神父に向けて書いたとされる手紙を紹介し、この手紙の内容から読み取れる情報を使い、自分なりに当時の気候について考察を交えて書いた。

次にザビエルがどんな人物であったかがより鮮明にわかるように、ザビエルの肖像画の中で一番有名な「聖フランシスコ・ザビエル像」についての解説を行った。工夫したところは、見出しと小見出しの色を統一し読みやすくしたところと、自分の考察を文中に交えてより理解しやすいようにした部分だ。また、苦戦したことは、ゼミの7人全員がザビエルについてという同じ課題に取り組んでいる為、文章を書いている途中で内容が被ってしまい、何度も話し合いを行い、添削をしなければならなかった事だ。

## 図表タイトル: ザビエルとはどんな人物だったのか?

### ザビエルってどんな人?

フランシスコ・ザビエル(スペイン語: Francisco de Xavierまたは Francisco de Jasso y Azpilicueta)は、1506(永正3)年4月7日スペイン・ナバラ生まれの宣教師である。19歳でパリ大学に留学し、24歳の時、哲学教授の資格を得た。そこで、ザビエルと同じバスク地方(スペインとフランスの国境にまたがる地域)出身であるイグナチオ・デ・ロヨラと出会い、宣教師になる決意を固めた。そして、ロヨラとともにイエズス会を創り、東洋への普及に努め、生涯を神に捧げた。

ザビエルは東洋へ布教するために最初にインドを訪れ、次に現在のスリランカであるセイロン、マレーシアの都市マラッカ、現在のインドネシア共和国のマルク諸島であるモルッカ諸島などで布教活動を行った。その後、1549(天文18)年8月15日に鹿児島に渡来し、日本で2年間にわたる布教活動を続けた。

### ★ザビエルのちょこっと裏話★

ザビエルは8月15日に鹿児島に到着したと伝えられているが、南国鹿児島でも11月になると、寒さも厳しくなる。ザビエルは日本に渡航する神父に、ここは死ぬかと思うほど寒い地のため、ポルトガル製の布で作った着物と履物を準備してくるよう伝えたという。このことから、以前ザビエルが訪れた東南アジアの国々よりも日本の気温が低かった事に加え、14世紀半ばから19世紀半ばにかけて続いた寒冷な期間である小氷期に見舞われたため、当時の気温はとても低く寒かったことがわかる。

### ザビエルの肖像画

聖フランシスコ・ザビエル像



(出典: 神戸市立博物館HP)

ザビエルの肖像画の中で最も有名な絵は1982年から現在に至るまで兵庫県神戸市立博物館に所蔵されている。この絵は、作者は不明で1506年~1552年の間に描かれたものである。肖像画に描かれている「IHS」とは、イエス・キリストを表しており、イエズス会の紋章である。他の国で描かれた肖像画と比べてみるとこの肖像画は、燃える心臓と十字架という象徴的なものが描かれている。これは、16世紀のローマ生まれのイエズス会士、オラツィオ・トルセリーノによって作成された『ザビエル伝』所蔵の肖像画には見られない特徴である。燃える心臓は、ザビエル伝が伝える、祈りの後にザビエルの胸が腫れ上がったという話によって描かれたものであり、十字架は、イエズス会などカトリック信徒が重視した、祈りにおける十字架の観念を視覚化したものと考えられている。また、この肖像画を描いた日本人絵師と西洋人宣教師が独自に追加した表象だったともいわれている。

肖像画下の黄色地に墨筆で書かれた部分は、日本のひらがな・カタカナが成立する前に使われていた万葉仮名で「塔間落怒青周呼山別論摩摩可羅綿都 漁父環人」と書かれている。この文字は、聖フランシスコ・ザビエルがキリストからの恩恵を目に見える形で受け取り、それを文字に表している秘跡である。「漁父環人」は、全世界のカトリック教徒の精神的指導者であるローマ教皇を表している説がある。

D. R

## タイトル: ザビエルについて

学籍番号: 2213080

名前: 野口璃子

### ■概要説明:

私は、ザビエルの布教活動とハンセン病患者などへの救済活動について調べた。調べた目的として、ザビエルはどうやって信者を増やしたのか、また、なぜ社会的弱者を目的にし救済活動を行い、その人達にも信仰させたのか気になったからだ。ザビエルが最初に布教活動を行ったのが、現在の鹿児島である。当時の薩摩の守護大名である島津貴久に宣教の許可をもらってから全国各地に布教活動を拡大していった。また、布教する上でザビエルが目をつけたのが下層社会の人々だ。ザビエルは彼らを積極的に助けることに力を入れた。また彼らは、キリスト教における「救い」のことを聞きつけ、次々に信仰するものが増えていった。こうしてザビエルは日本での侵攻を拡大していったのだ。私がこのプロジェクトで工夫したのは、自分でイラストを書き、実際の宣教のイメージを伝わりやすくしたことだ。苦労したことは、救済活動についての情報が少なかつたため、探るのが大変だったことだ。

### ザビエルと布教活動

#### 布教活動について



インドで宣教していたザビエルは後にマレーシアに逃亡中のヤジロウという日本人に出会い、日本に行くことを決意する。その後、現在の鹿児島である薩摩着いたザビエルたちは薩摩の守護大名の島津貴久から宣教の許可をもらった。しかし、仏教の僧侶らが、「バテレン(司祭)は僧侶をバカにしている」と怒つたため、平戸(長崎)や周防(山口)に移動した。周防では、日本初の教会堂を与えられ、600人も日本人がキリスト教徒になった。戦で人を殺したり、家族を死なせたことで苦しんでいた日本人にとって、ザビエルの「神様を信じれば罪が許される」という教えは大きな救いとなった。

#### ハンセン病患者などへの救済活動

ザビエルは1549(天文18年)に日本の社会慈善事業の歴史において功績を残している。ザビエルが来る以前は、日本の社会慈善事業は途絶えていた。

ザビエルが来てからは、貧民や孤児の救済、病人の治療などの福祉活動、下層社会での学校の設立など、布教活動と社会慈善事業とが表裏一体となっていた。その中でもハンセン病患者への救済活動は目立っていた。

ザビエルが日本に向かった目的として、単なる布教ではなく、最初から身分制度から外れた人や「癩者」(ハンセン病患者)の救済を目指した。本来日本では、鎌倉時代以後の仏教には、差別を否定する思想や癩者を救済する活動があった。しかし、近世になるにつれ、古代・中世とは異なる「ケガレ」(忌まわしく思われる不浄な状態)の思想が広がった。ちょうどザビエルが訪れたのは、そのような時代の日本であった。そのような中、ザビエルの態度や振る舞いは人々を驚かせた。ザビエルは布教活動をしながらも、率先して癩者の救済に力を入れていた。ザビエルの活動を見て、洗札を受ける者は多かつたが、その後、彼が日本を去って60年後に徳川幕府がキリスト教を禁止し、被差別民を戸籍上から厳重に監視することになった。その意味でも、ザビエルと日本の被差別民は切り離せない関係にあるということだ。

NR